

目次

あいさつ センター長 金本 良通…………… 1
 クリニコス・ホール（実践の“広場”）…………… 2
 人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」
 を開講しました！！…………… 2

教育実践研究部門より…………… 3
 学校臨床心理部門より…………… 4
 教員養成開発部門より…………… 5
 おしらせ・スタッフ・アクセス…………… 6

学習指導要領改訂等の教育を 巡る状況を受けて

センター長 金本 良通



幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等が改訂された。今回の改訂は、教育基本法及び学校教育法の改正を受けたものとなり、また、社会と教育のグローバル化の進展の中での改訂であった。さらには、「知識基盤社会」という認識は、「習得－活用－探究」型の教育というキーワードを生み出すとともに、「教育の目標を明確にして結果を検証し質を保障する」というスタンスをも生み出している。

アメリカからはじまった金融危機は世界的に広がり、今日においては我が国の実質経済、そして、身の回りの生活にまで影響を及ぼしている。このような状況を目の当たりにすると、子どもたち自身の現在と将来のために、子どもたちに確かな学力を身に付けさせ、生きる力をはぐくんでいくことの重要性を身にしみて感じる。2008年は、国際的な学力調査の一つであるPISA2006の結果の発表による学力低下への危機感と新学習指導要領への期待から始まり、そして、やはり国際的な学力調査の一つであるTIMSS2007の結果の発表による学力低下の「歯止め」状況で終わった。また、

2008年は、幼稚園、小学校、中学校の学習指導要領等の発表で始まり、そして、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の発表で終わった。さらには、学力の状況だけではなく、子どもたちの社会的・集団的特質も、子どもたちが置かれた状況の変化とともに近年大きく変容しており、学校・地域・家庭の教育的機能の回復とその協同的な再構築が求められているように感じる。

他方、本学とりわけ教育学部における教員養成システムに目を移せば、平成18年度カリキュラムの進行とともに、学校・教育委員会との連携が着実に進み、学部・大学院において、学校現場の諸課題をとらえ、学生の実践的な力量を培い、理論と実践との往還的な理解をはぐくむものへと豊かに展開されてきている。そして、このような時期に、教員免許法施行規則改正による「教職実践演習」のカリキュラム化が始まろうとしている。

子どもたちの状況を適切にとらえ豊かにはぐくんでいくことが、教育関係者・機関に求められているとともに、そのことを進めていくに当たって、学校・地域・家庭の連携、大学と学校・教育委員会等の教育機関等の連携など、多様な連携が求められている。そして、そのような状況の中において、教育学部の役割が、教員養成段階を含み様々な段階で期待されている。そして、教育実践総合センターは、このような役割と取り組みの中で、その機能が一層重要になってきていると感じている。

「クリニコス・ホール（実践の“広場”）」

今年度、開室した「クリニコス・ホール（実践の“広場”）」が、「支援の“広場”）」として動いています。

- センターの教員養成部門と教職支援室・進路指導委員会が協力して、教職支援に活用しています。
レクチャー・模擬授業・面接指導等にフレキシブルに対応できる場所を活用しています。
教職スタート準備講座も開催しています。学校フィールド・スタディ関連にも対応しています。
- 教育実践研究部門では、毎週木曜日夜間、授業ビデオカンファレンス「木曜ゼミ」を開催しています。
学生・院生・研究員のほか、現職教員や教育実践ファシリテーターも参加して、授業を見る「眼」と子どもの学びを語る「ことば」を紡ぎ合い共有しながら、「質」の高い実践研究を進めています。
- 学校臨床心理部門が中心となり、メンタルヘルス・リラクゼーションの講座を開催しました。



ストレス・マネジメント実践講座

第1回 「考え方のクセに気づくワークとリラクゼーション」

2月13日（金）午前10時～（尾崎啓子・庄司康生）

第2回 「カウンセリングの技法とリラクゼーション」

2月27日（金）午前10時～（椋田容世・庄司康生）

- さらに、こんな場所に!! 「クリニコス・ホール」を順次、整備していきます。
 - 小・中学校を想定したLearning Space
 - 情報コンテンツにアクセスしたり、個別対応可能なConference Space
- 附属小敷地内の「ベース・センター」も、活用します。
 - 「センター相談室」を中心とする附属校園との連携・支援
 - 特別支援教育、適応指導教室等への総括的支援
 - 教員（現職）研修支援

人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」を開講しました！！

今年度は、「学校臨床心理部門」が中心に企画した新しい授業として「人間形成総合科目：ストレス・マネジメント」を後期に開講しました。

これは、平成17年度から、教育学部の進路指導委員会との連携を基に、単発講座として年に1～2回程度開催してきた「ストレス・マネジメント」講座を授業化したものです。

教育実践総合センターの3部門の教員全員が分担担当し、学校現場における多様なストレスをどのようにとらえ、上手にマネジメントしていくかをテーマに15回授業を行いました。ストレスについての概論、学校における多様なストレス、コミュニケーションの理解と開発、カウンセリングの技法、様々なストレス対処法、イメージや身体を使ったリラクゼーションなど、具体的で実践的な内容を盛り込み、講義とロールプレイングなどのワークを通して、ストレスとのつきあい方を幅広く学んでもらうことを目指しました。

1・2年生を中心に約50名の学生が受講し、終了時アンケートでは、「具体的で参考になった」「面白かった」「落ち着いて自分と向きあう良い時間となった」などという感想が多く、概ね好評でした。

来年度はさらに内容を工夫し、学部その他専修の先生方にもご参加いただいて、実施する予定です。

教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

教職専門性・授業者としての
専門性の探究と養成

- 教員養成の統合的システムの
開発研究
- Teaching & Learning
Action のリフレクション

教師の授業実践と 子どもの学びを支援

教室の
アクション・リサーチ

教師の実践知の高度化
学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教員養成カリキュラムの
基礎研究専

- 教職専門性スタンダード
- 学校の同僚性の構築
- 表現する身体と関係性

平成20年度

リサーチ連携校

- ・さいたま市立三室中学校
- ・熊谷市立中条中学校
- ・同 大幡中学校
- ・本庄市立児玉中学校
- ・宇都宮市立古里中学校
- ・練馬区立豊玉南小学校
- ・江東区立南陽小学校
- ・茅ヶ崎市立浜之郷小学校
- ・増穂町立増穂中学校
- ・富士市立元吉原中学校
- ・富山市立奥田小学校
- ・伊丹市立天神川小学校
- ・高知市立潮江小学校
- ・同 潮江中学校
- ・香南市立野市東小学校

学校改革・授業改革

- 「聴き合う」「学び合う」学び
- 学びの文化創造共同体
- アクション～市民性への学び
- 「知」の『拡張』と『分散』
- 新しい学びのスタイルと場の構成

平成20年度木曜ゼミ内容

第1回6月12日(木)
「牛山栄世先生詩『土』」
からはじまって17回

道徳『大きくなるっていうことは』
理科『ひとのからだ(イワナ解剖)』
国語『ごんぎつね』
英語『沖縄のSadnessとBrightness』
国語『ちいちゃんのかげおくり』
総合『養蚕』
社会『道祖神を調べる』
理科『気体の体積』
保育実践『ひろばの日』
美術『ゴッホの自画像鑑賞』
音楽『アンサンブル』『音を聴く』
フリースクール『彩星学舎』 演劇教育 ほか

研究員による

プロジェクト研究

「米国における教職スタンダード
に基づく教育改革の現状
(教職専門性スタンダードと
教育スタンダードの動向)」

北田 佳子

「学び合うコミュニティ創造」

本谷 宇一

「生徒指導の組織対応を支援する
指導事例情報共有」

五月女 保幸

教育実践ファシリテーター

認定と交流

- 各学校・園・地域での実践の
支援・推進
- 実践的研究と交流・支援
木曜ゼミにも参加

『木曜ゼミ』

ビデオによる カンファレンスの会

毎週木曜日・クリニコス・ホール

どなたでも参加できます。
(県内外の教職員・学生・院生)

事前にご連絡を。

公開研究会のご案内 (センター教育実践研究部門と「教育臨床講座」共催)

実践の「巨人」来訪

牛山 栄世先生 (教育実践者・信濃教育会) 著書『学びのゆくえ』(岩波書店ほか)

3月17日(火)午後1時から クリニコス・ホール(コモ1号館2F)

詳細は、お問い合わせください。

学校臨床心理部門

今年度は、これまでの基本方針である、附属学校園との連携強化、研究活動の充実、地域貢献に加え、特に学部の教員養成に関わる活動に力点を置きました。授業やセミナー、学校体験学習、教育実習への貢献を継続する一方、今年度より授業化された「ストレス・マネジメント」では、学校臨床心理部門が中心となって授業設計および実施をするなど、学生のメンタルヘルス教育活動を広く展開しています。

◆学部学生への指導・支援

1. 人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

後期に、教育学部の新設授業として「ストレス・マネジメント」を開講し、センター教員全員によるオムニバス方式で担当しました。今回は入門編でしたが、学生に好評で、「とても参考になったので、応用編も開設して欲しい」という感想が寄せられました。

2. 「ストレス・マネジメント実践講座」の実施

上記の授業を受講した学生からの「時間があればもっと実践を学びたい」との希望に応え、教育実践研究部門と連携し、ストレス・マネジメント実践講座を2月に2回開催しました。第1回「考え方のクセに気づくワークとリラクゼーション」、第2回「カウンセリングの技法とリラクゼーション」を実施し、一回2時間構成でストレス対処法やカウンセリングの技法、リラクゼーションについて、より実践的に学ぶ機会を提供しました。一回ごとに修了証明書を発行し、学生のモチベーションをさらにアップさせる工夫も試みました。

3. 「学校フィールド・スタディA」の実施・運営への参与

事前授業において本科目の意義とその活かし方についてミニ講義を行い、中間授業、振り返り授業でのグループワークを担当しました。学生の発表内容やレポートを通して今後の課題について検討を行っています。

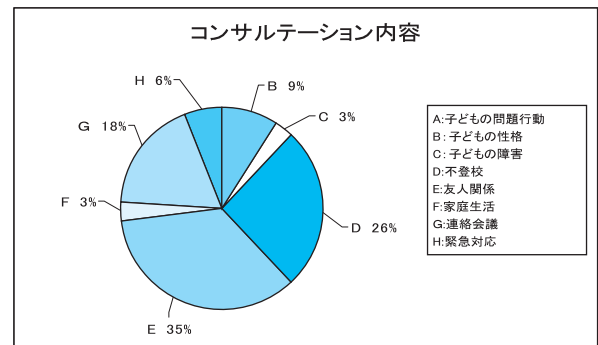
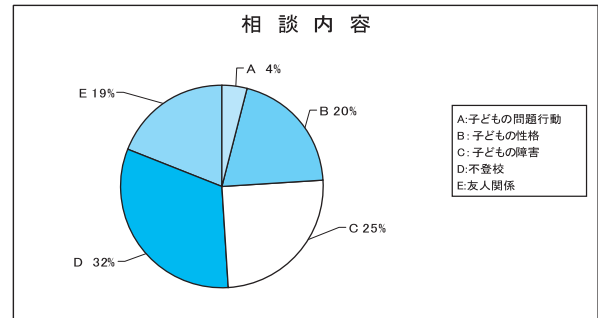
4. 「教職スタート準備講座」でのセミナー担当

昨年度に引き続き、「ストレス・マネジメント」や「保護者対応における教育相談の技法」などのセミナーを担当しました。この取り組みは教員養成開発部門との連携によるものですが、2年目となった今年度は受講者数が大幅に増加しました。

◆附属学校園との連携

1. 附属学校園の児童・生徒、保護者、教職員を対象とした相談活動

この相談活動は、附属学校園との連携の主軸となっているものであり、開設3年目を迎えた今年度も多くの利用がありました。相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです。



◆研究活動

1. ストレス・マネジメント授業の実施と課題についての研究

授業開始時期と終了時期に、受講生にアンケート調査を実施し、授業評価の分析と検討を行いました。年度末には、センター紀要にて研究報告を行いました。

2. 研究報告

今年度のセンター紀要において、以下の研究報告を行っています。

「『人間形成総合科目』における「ストレス・マネジメント教育」の導入と学生・教員による授業評価」(尾崎啓子・椋田容世)

「さいたま市における特別支援教育コーディネーターのニーズに関する調査」(田嶋香子・尾崎啓子)

◆現代G P「教員養成のためのモジュール型コア教材開発」における教材作成

教育臨床編「教育相談の実際」の中の「教師のためのストレス・マネジメント～ストレスと上手につきあうために」を作成し、Web上にコンテンツを公開しています。学生の授業だけでなく、学校現場の先生方にもご活用いただくとありがたいと考えています。

教員養成開発部門

◆具体的な取組

1 学校フィールドスタディ推進委員会と一体となった「学校フィールド・スタディA」の実施、運営

本年度は、学びのフィールドを高校まで広げ、幼稚園・保育所、小・中学校も含め、学生のニーズに応じた体験の場の充実を図りました。履修予定の学生への説明会の実施や体験を学びに高めるために事前指導、中間授業、振り返り授業を行いました。さらには学生の活動状況を配置先の学校訪問を通じて把握し、内容の充実に努めています。



(中学校にて学習支援を行っているところ)

2 進路指導委員会との共催による教職支援セミナーの実施

教職を目指す学生に、教育改革に係る動き、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、サービスと教育法規等についての講義を行っています。

前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを中心に行っています。各プログラムとも150~200名の学生が参加し、教職に対する理解を一層深める機会となっています。

3 教職スタート準備講座の実施

11月~3月にかけて卒業後教職に就く予定の学生に対し、実践的な能力の習得を目指し、セミナーを実施しています。即戦力を身につけ、質の高い教員として学校現場で活躍できるようプログラムの内容を工夫し、開催しています。

(プログラム内容例)

- ・教師の仕事、社会人・教師としての心構え
- ・国語、算数、道徳、特別活動の授業づくり
- ・学級づくり、生徒指導や保護者との対応
- ・現代の教育課題、教育課程の基礎知識
- ・校務分掌組織、事務処理
- ・教育活動と法知識
- ・教員のメンタルヘルス、教育相談の技法 等

4 小・中学校学校の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立学校研究発表会への学生参加を進めています。本年度も多くの学生が参加し、学校現場での研究の実際に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となりました。

5 ホームページの活用研究

学校現場と大学の学びをつなげるツールとして、あるいは教育実践総合センターが行う事業の効率化を図るツールとして、ホームページの活用研究を始めています。学校フィールド・スタディ、現職教員との交流、教職を目指す学生との学習相談、センター紀要論文の公開等、どんな活用が可能なのかを今後研究していきます。



(試作中のホームページ)

<http://comweb1.center.edu.saitama-u.ac.jp/>

